

新山口駅北口駅前広場「0番線」コンセプト

新山口駅北口駅前広場は、旧市街地に面して東西方向約220m、南北方向40～60mに広がる広場です。
SL、ディーゼル、在来線、新幹線と四世代の鉄道が現役で稼働する全国的にも貴重な当駅において、広場内のバス・タクシー等の自動車交通と、集い憩う人々の流れを新幹線口から続く線路の一つに見立て、前面道路に面する位置に「0番線」と名付けたゲートウェイを計画しました。

橋上駅舎と自由通路から繋がる高架レベルを、まちとの接線に当たる位置にまで延伸して東西に展開することで、細長い敷地のポテンシャルを最大限に生かし、駅とまちを密接に結びつけると共に、駅前広場を緩やかに囲い込むことで居心地のよい広場空間を提供しています。

駅前広場には、市役所や県庁のある中心市街地エリアと空港を結ぶ高規格道路につながるアクセス道路が接続するなど、鉄道だけでなく、公共交通や車など各種交通の結節点としての機能も拡充が続けています。他方、そうした移動や交通手段の拠点となるだけではなく、半屋外空間の中に長大な壁面緑化が展開する南北自由通路によって駅の南北市街地を結びつけ、開発が進む広場西側重点エリアへの導入部となるなど、まちづくりの起点としても位置づけられています。

「0番線」により地盤レベルと高架レベルという二つの高さを持つことで、人々にまちや周囲の山々を望む新たな視点を提供し、同時に、駅からまち、或いは、まちから駅への多様なアプローチが可能な北口駅前広場は、まだまだ様々な可能性を持っています。
山口市は、自由通路から広がる緑の流れが広場を経て周囲の山々へつながり、機能面においては周辺地域と相互補完的に一体化しながら、駅を起点としたまちづくりを地域と共に実現していくことを目指しており、特に、重点エリアに対しては、緑地を含む広場空間と「0番線」の持つ二つのレベルが連続していくことが、動線上はもちろん、まちづくりの骨格としても重要と考えています。

